

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

有限会社アウルメディカルサービス

②施設・事業所情報

名称：社会福祉法人ちとせ交友会 原尾島こども園	種別：幼保連携型こども園
代表者氏名：理事長 山口哲史 園長 竹内緑	定員（利用人数）： 110（132）名
所在地：703-8235 岡山市中区原尾島1-7-5	
TEL：086-273-2730	ホームページ：http://www.chitosek.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 令和3年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人ちとせ交友会	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員： 17名
専門職員	施設長・管理者 4名 保育士 26名
	管理栄養士 3名 事務・雑務 3名
	(医師：嘱託) 3名、(看護師) 1名
施設・設備の概要	(居室数) クラス数7室 (一時保育室1室を含む)
	・年齢別6室と一時預かり室1室 ・ホールがある ・園庭がある

③理念・基本方針

Home -
ここに集い ここで育み そして ここから はばたく
ちとせ交友会は かかわる すべての人にとって心安らぐ場所 Homeでありたい

保育・教育の目標

ピアジェの構成論の理論に基づいたカリキュラムを行いながら、無理なく子どもの発達を促していけるような質の高い幼児教育の提供を目指し、ゆきとどいた安全な環境と、家庭的なぬくもりの中で一人一人の子どもを大切にし、健康で明るく思いやりのある自律性を持った子どもの育成を目標とするものとする。

- ・生き生きとし、元気に遊べる子
- ・友だちとしっかり関わり、育ちあう子
- ・自分で考え、行動する子

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・法人理念の「Home」を教育及び保育の理念とし、園児が日中を過ごす第二の家～Home～を目指し、子ども・保護者・地域の方の心安らぐ憩いの場となれるよう、またピアジェの構成論の理論に基づいたカリキュラムを行いながら、無理なく子どもの発達を促していけるような質の高い幼児教育の提供を目指している。
- ・園としては地域の方との交流や宇野小学校との交流をしている。
- ・園児に対しては健康で明るく思いやりのある自律性を持った子どもの教育・保育に心がけている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 11 月 19 日（契約日） ～ 令和 8 年 2 月 20 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 令和 年度）

⑥総評

◇特に評価が高い点

ピアジェの構成論を取り入れており、主体的に園児自らが学べる体制づくりに努めている。今年度から新たに就任した園長を中心に様々な改革を行っている。今までの登降園のやり方を変更した。その結果、クラスの雰囲気や様子、子ども達の作品がいつでも閲覧できるようになり、職員と保護者との会話時間も増えた。職員の子どもが通園しており、職員目線と保護者目線の両方の視点から園を俯瞰することができ、保護者との距離感もわかりやすい。環境面では、園が新しく、明るく、園庭も広くて開放的である。園長は、副園長・主幹教諭の先生と手を取り合い、より良い園となるように頑張っていきたいと語ってくれ、今後の発展に期待が持てる園であった。

◇改善が求められる点

今でも十分にできていますが、職員同士の関係性をより良くして、協力体制を強めていってほしい。さらに保護者や地域との連携を図り、園庭解放や近隣の防災訓練、小学校との連携や町内会の協力体制を強固なものにしてほしい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

外部評価を受けるにあたり、外部評価調査者の皆様には、細かいところまで丁寧にご指導をいただきまして、ありがとうございました。これからも、見直していくこと、新たに取り組むことを職員と一緒に考え、明確化しながら共有していこうと思っています。また、この園に子どもを預けたい、ここで働きたいと思ってもらえるよう、子どもたちの心にも残る園で居続けたいと思います。外部評価調査者の方から改善点のアドバイスいただいた、小学校や地域との連携や協力体制を具体的に行っていこうと思います。このような機会を与えてくださったことに、感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果（別紙）

(別紙)

保育

第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	○a・b・c
<コメント> 保育理念、基本方針、行動規範は明文化されており、ホームページにも掲載している。園の玄関や各クラス、トイレにも掲示しており、全体への周知を図っている。全職員に配布するステートメントブックには、理念に込めた思いや解説が記載されている。毎年職員に対しては、基本理念と保育方針の研修を通じて、理解を深めている。保護者に対しては、重要事項説明書にて周知しており、入園式、進級式、見学会にて説明し、周知を図っている。		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	○a・b・c
<コメント> 法人が中心となり、事業をとりまく環境と経営状況の分析を行っている。理事長が法人全体で決定した社会福祉事業の方向性を説明している。園長は毎年の予算を立て、本部の経理担当者と月次の実績を共有し、経営状況を把握している。また、セキュリティのあるサーバーにて閲覧は可能である。		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	○a・b・c
<コメント> 年1回の総会にて、理事長の想いを聞く場がある。交友会全体の研修会では、理事長から経営状況の説明がある。利用園児の確保や消耗品の節約をしており、コストに対しての意識を持って取り組んでいる。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>法人全体で中・長期と収支計画策定している。理念や基本方針を中心に実現化に向けた内容になっている。また、2025年度の長期経営計画は書面化している。具体的な数値目標を設定しており、実現できるように取り組んでいる。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>法人で掲げている中・長期計画には、主要活動は、①市場・環境認識、②長期経営方針、③長期収支・人員計画、④その他では、人口減少中でも一人ひとりが意識レベルを上げ、選ばれる法人になることや働きやすい職場を目指すことが私たちリーダーが目指すゴールへの道標である。となっている。</p>		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は、会計担当者と相談しながら、2月頃に作成している。事業計画の策定と実施状況の把握や見直しは毎年行っているが、パート職員への理解は十分ではない。しかし、正職員には研修にて伝えている。職員に対しても、職員会議や必要に応じて説明して、周知している。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>事業方針は、入園説明会や入園後の個人面談で保護者に説明している。事業計画の保育の質の向上・安全・安心については、手紙や直接説明をしている。保護者から質問があれば、その都度説明をしている。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>保育の質が向上できるように保育の様子をビデオに撮り、振り返りを行っている。発達心理学者の「ピアジェの構成論」を岡山エリアの園や他園と合同で学んでいる。プチ公開保育や園内研修では、goodポイントとchallengeポイントで評価している。今回初めて第三者評価を受審して、今後活かそうと考えている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・(b)・c
<p><コメント></p> <p>他園の公開保育に参加して、参考となる保育内容を取り入れたり、職員間で話し合って見直しを行ったりしている。自園での公開保育にも来て頂き、他園からのアドバイスを参考にして、改善できるように取り組んでいる。プチ公開保育では、園児の興味があることに取り組んでいる。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園長は、法人の会議や研修において経営・管理に関する方針と取り組みについて理解している。また、職員にも周知している。ホームページに挨拶や園の方針を掲載している。安全面の観点から園児人数の把握は園長が行っており、各クラスをラウンドして必要に応じて電話連絡をしている。園長の心はととても広く、頼りになり、何でも相談できる体制が構築されている。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園長は、遵守すべき法令を十分に理解しており、適切な運営に努めている。内部研修や外部研修にも参加している。裁判事例を学ぶ研修やコンプライアンス研修に参加し、必要に応じて職員にも周知を図っている。直近では、カスタマーハラスメント研修に参加した。</p>		

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育教諭側からの悩みや相談があれば、丁寧に対応している。ビデオで撮った保育を確認して、評価・分析をし、保育の質の向上に取り組んでいる。ピアジェの構成論を参考にして、こどもの動きを確認して、職員間で意見を出し合っている。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>経営の改善や業務の実効性を高められるように取り組んでいる。必要経費や予算、支出についても経理担当者との連携を図り、改善できるように取り組んでいる。職員が保育に専念できるように、人員確保に努めている。また、園長からエリアマネージャーに相談して、正規職員の人員確保できるようにしている。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>必要な人員体制に関する計画を策定している。職員の希望人数は本部に伝えている。人員確保については、就職フェスや新採用面接を実施している。法人では、保育士養成校を設立しているので、保育確保にも努めており、学生は保育補助として働くことも可能である。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>年度初めに園長独自のアンケートを行い、職員の人柄について把握をした。自己評価と上司評価をして、評価表を基に個人面談を実施している。職員に「人事に関するアンケート」を行い、その内容を踏まえながら、園長やエリアマネージャー(理事長)面談を通して、異動やクラス担任について、一人ひとりの意向を確認している。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>こどもと離れた場所で休憩を取っている。職員一人ひとりの健康面や勤務時間の管理をしている。また、必要に応じてヘルプに入ったり、クラスをラウンドしたりして、職員との意思疎通を図っている。個人の負担が増えないように、個別に職員対応もしている。また、指定休やリフレッシュ休暇もある。</p>		

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>ちとせ交友会の基本理念や社会的使命を明文化した「ステートメントブック」を職員に配布しており、新人研修では「期待する職員像」を明確にしている。個人面談の際には、自己評価と上司評価を基に一人ひとりに課題を与えている。また、自己分析シートの50項目の質問から課題を明確にしている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年間計画に基づき、園内研修・外部研修を実施している。参加しやすいようにシフトを調整しているため、多くの研修に参加できている。保育方針である「ピアジェの構成論」を学ぶため、毎月研修に参加している。幼稚園教諭免許の取得研修に参加しやすいように、補助金制度を設けている。昨年1名の方が幼稚園教諭免許を取得した実績あり。役職に合わせた、主任研修や副主任ミドル研修などに参加している。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>新任職員は、その人柄に合ったベテラン職員とクラスを受け持つような人事配置にしている。職員の経験・受講歴を考慮して、職員一人ひとりが外部研修へ参加できるようにしている。他園の公開保育の見学へ行き、保育を学べる機会も設けている。事後報告として、反省・考察を記入している。新人職員研修ワークシートを活用して、ビジネスマナーや言葉遣いについて学びを深めている。外部研修内容は、副園長が把握している。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>実習は副園長が担当している。未来を担う保育士を育成するため、積極的に実習生を受け入れている。実習生の受け入れにあたっては、留意事項を明確にしている。実習生の学校と相談しながら実習日程を、その都度作成している。教育実習オリエンテーションの様式は整備されており、今年度は6名の実習生を受け入れた。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームページに理念や基本方針、保育の内容、決算報告書、現況報告書を公開している。また、近隣の介護施設の運営推進会議に参加したこともある。地域の方々に事業所の役割を伝える機会として、地域に向けての公開保育も実施しており、こども達の様子を見る機会を設けている。</p>		

22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>年度初めの職員会議にて、職務分担表を配布し、権限と責任を周知している。毎月の行事係も決めている。毎月作成する試算表を公認会計士に確認して頂き、助言・指導を受けている。会計責任者でもある園長は、職員に向けてのミニ勉強会を実施している。</p>		

Ⅱ-4 地域との交流と連携・地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>1年間の園庭開放予定日をホームページに掲載したり、入園説明会でもお知らせし、参加を呼びかけている。学区のイベントにも参加して、地域の方との交流をしている。学区のイベントとして、子育て交流フェアでの水遊び、三世代交流ふれ合いフェスがあり、近隣のこども園・保育園と連携を図っている。学区の防災訓練や運動会にも参加できた。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>将来保育士を目指すきっかけになればとの思いがあり、ボランティアの要望があれば、受け入れるようにしている。登録手続きや事前説明に関する項目は文章にて明確化している。法人が運営している学校からのボランティア要請があった。その際には、こども達と保育補助のような感じで一緒にお遊戯を楽しんでいる様子が窺えた。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者から相談された内容に対応できるように、日頃から地域こども相談センターと連携を図っている。相談された内容は記録しており、職員にも状況を伝えている。内容によっては、地域こども相談センターから見守り依頼表が届き、情報を共有して対応している。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>法人の基本理念にも「地域社会の一員として地域の絆づくりの拠点となる」を掲げている。地域社会の一員として、地域の行事にも参加している。子育て交流フェアでの水遊び、三世代交流ふれ合いフェスに参加して、近隣のこども園・保育園と連携を図った。学区の防災訓練や運動会にも参加できた。</p>		

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園庭開放や公開保育の際に、地域の人に来て頂いている。プチ公開保育に参加することで、地域の福祉ニーズの把握に努めている。見学会の際には、必要に応じて、育児相談も実施している。園長は看護師会に加入しているので、法人全体の動向を把握しやすい。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもを尊重した保育の実施についての理念や基本方針を明示しており、新人研修でも説明している。入社した職員に配布する「ステートメントブック」にも「児童憲章」、「基本的人権の前提となる3原則」、「児童の権利に関する条約」を載せ、子どもの人権に十分配慮するように伝えている。子どもに対しては、「さん」、「くん」、「ちゃん」をつけて呼び、子ども同士も互いに呼び捨てをしないように指導して、尊重し合う心を育てている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>職員に配布する冊子には、情報の漏洩防止に関する留意事項を記載しており、周知徹底している。重要事項説明書にもプライバシー保護についての別紙を載せている。保護者にも他の子どもの個人情報の取扱いについての配慮を促している。書類は個人が特定できないように、イニシャルで記入している。おむつ交換も排泄コーナーで行い、外から見えないようにしている。細かい面で、子どもを尊重するようにしており、職員間で情報を共有している。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>見学希望者に対しては、説明会を実施している。保育目標、保育内容、保育の特色について説明している。パワーポイントを使用して、園での1日の流れを紹介している。園内見学後には、個別相談にも乗っている。見学希望者が多いので、見学日を決めている。園の雰囲気を理解して頂けるように、園庭開放の案内もしており、入園に繋がった事例もある。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>保育の開始及び保育内容については、重要事項説明書にて個別に説明をして、同意書を頂いている。重要事項説明書は、保護者にわかりやすいように、写真や絵を用いて資料を付けている。デイリープログラムの書面では、添付の持ち物がわかりやすいように、写真や絵を使用している。</p>		

32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>こども園を変更するのに必要な書類はすぐに渡せるようにしている。生活面・食事・排泄・睡眠・遊び・家庭環境が記されている書類は整理されている。卒園した小学1年生には、ハガキを郵送して、夏祭りへの招待を促している。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>参観日・運動会の後には、アンケートを実施して、保護者の意向を把握している。また、保護者役員会でも意見を聴取している。保護者アンケートはその行事について記述式で回答して頂き、保護者の意向を把握できるようにしている。各行事毎にアンケートを実施しており、まとめた意見を保護者向けに掲示もしている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>苦情解決の体制は、「重要事項説明書」に記載されており、意見箱も玄関に設置している。保護者から苦情の申し出があれば職員間で話し合って検討している。受けた苦情の内容と解決を図った記録も適切に保管されている。出た意見は、苦情と保護者相談・アンケートノートにまとめている。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>日常的に保護者と話をする時間を持ち、相談しやすい関係作りを構築している。0歳児は連絡ノートを活用しており、健康状態、食事、連絡事項を記入している。相談内容を記載して頂き、その日に回答できるように努めている。保護者の相談に応じる際には、談話相談室を使用し、安心して話せる環境作りを整備している。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	○ a · b · c
<p><コメント></p> <p>職員は、毎日の送迎時に保護者との会話を増やして、相談がしやすい環境作りに努めている。保護者から相談や意見があった際には、職員間で話し合って対応している。苦情の対処方法は、職員間で共有している。クラスの中に入って頂くことで、保護者と話をする時間を自然と設けている。</p>		

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>危機管理運営委員会、保育の質委員会を設置しており、毎年マニュアルも見直している。緊急対応のマニュアルも事務所(職員室)に置いてあり、いつでも閲覧が可能である。事故が発生した場合は、今後の予防対策を職員自らで考えて、再発防止に努めている。園長は率先して自分の所在を明確にし、職員に対しても散歩に出掛ける時には報告もしている。欠席の際には、保護者から必ず連絡を頂き、連絡がない場合には、園から連絡をするようにしている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症対策の責任者と役割を明確にした管理体制が整備されており、「感染症発生時の流れ」が事務室に掲示されている。備品やおもちゃは次亜塩素酸水のスプレーで拭いたり、噴霧器を置いたりして感染予防対策に努めている。汚物処理用キットを各クラスに常備しており、すぐに利用できるようにしている。水分はこまめに摂取するようにしており、1年間を通して、毎日水筒を家庭から持参して頂き、感染予防にも努めている。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>災害時の対応体制は決められている。各クラスのリーダーは、緊急時持ち出しリュックには、全ての園児の緊急連絡簿や着替え、タオル、雑巾、ビニール袋、救急セットが入っており、すぐに持ち出せるようにしている。避難場所である宇野小学校までは実際に園児を誘導している。消防署からは、避難訓練の様子を確認した後、指導して頂いた。備蓄は、リストを作成して、給食室が定期的に在庫や賞味期限の確認も行っている。避難確保計画も作成しており、水害に対しても防災体制を記載して、レベルに応じた対策も講じている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>「考えさせるを考える」の保育の考え方を作成しており、ちとせ交友会カルチャーブックの冊子にも掲載している。それに基づいた新人研修や職員研修を行い、職員に周知している。保育内容は、ピアジェの構成論に基づいて実践している。園長、副園長、主幹保育教諭が各クラスを巡回して、保育の内容を確認している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>園長、副園長、主幹保育教諭、保育教諭が様々な視点で物事を考えて、見直しを実施している。「構成論を学ぶ会」が主催する研修会へは、基本毎月参加しており、保育内容を検証している。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年間指導計画、月週日指導計画案、年齢ごとのデイリープログラムは、各クラス毎に計画的に作成している。指導計画は養護、教育の両面からの視点で記入している。岡山エリアでは、書式や記入の仕方についての統一化を図っている。個人記録は、個々の情緒面、生活習慣習得状況、身体状況が記入され、それに基づいて計画をしている。また、園の自己評価を実施して、担当者が確認をしている。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>指導計画は定期的に見直している。課題を見つけ、その課題から次の「ねらい」を設定して作成している。その都度、変更があれば赤字で訂正して、見える化を図っている。副園長と主幹保育教諭で確認をしている。</p>		
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>職員会議で報告をしている。職員への周知方法は、議事録でクラスの状況について記録されたメモを貼り付けて、わかりやすくしている。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」も、日々の保育で確認している。事務所内では、職員が確認できるようにお知らせボードや回覧板を活用して、その日の職員の動きを示している。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>管理規定(5年間や10年間)に従い、保管と廃棄を行っている。廃棄の場合は、必ず園長が確認した後で実行している。個人記録や個人情報の書類は持ち帰らずに園で記録しており、鍵のかかる場所に保管している。データ(写真)が入ったPCも毎日事務所で保管している。ホームページやSNSの写真掲載については、保護者からの同意書を頂いている。</p>		

評価対象Ⅳ 具体的なサービス内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 全体的な計画の作成		
1	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>保育計画は、その年に育ってほしいこどもの姿を目標に掲げている。年齢別に年間指導計画を作成している。ねらい、配慮、援助を計画に反映させている。地域の中でこどもがのびのび育つような工夫も記載されている。また、保育理念や保育方針も十分理解しており、保育計画に落とし込んでいる。</p>		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		第三者評価結果
2	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>開放的で広い空間であり、年齢ごとに落ち着いて過ごせる配慮がなされている。各教室については、こどもの遊びに合わせ、その都度空間を狭めたり、広げたりして工夫を凝らしている。トイレは扉や壁面に飾り付けを行っており、明るい雰囲気となっている。</p>		
3	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>保育中は、こどもの気持ちを大切にしており、関わりを重視しながら、信頼関係の基、保育を行っている。0歳児クラスでは、特に情緒が不安定な子どもを抱っこしたり、優しく声をかけたりして、気持ちを受容する場面が多くみられ、こどもが不安になれば、すぐにフォローする職員の姿が窺えた。保護者からの要望があれば、園での対応について説明をしている。</p>		
4	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>特に食事指導では、こどもが自ら「食べよう」とする気持ちになるような言葉掛けをしている。デザートは最後までではなく、こども達のタイミングで楽しく食事ができる環境を考えている。1歳児・2歳児クラス(必要なクラス)では、保育教諭が個別に言葉掛けをして、自立支援に努めている。</p>		
5	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>各部屋に遊べるスペースを設置しており、こども達が主体的に遊べる(アメリカしゅうぎ、クロッシングなど)環境作りがされている。朝のグループタイムを利用して、1日のスケジュールをこども達に知らせ、見通しを持った生活をしている。こどもの制作や絵日記を通して、友だち同士で話しをするきっかけを作っている。</p>		
6	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>発達状況や生活の様子を連絡帳でやり取りしている。手作り玩具を利用し、こどもの探索活動が楽しめる環境作りがなされている。発達段階の違う子ども(歩行ができる、ハイハイをしている)がそれぞれが楽しめるよう、保育教諭が連携して保育を行っている。0歳児クラスには、看護師がおり、急変時の対応が迅速にできている。</p>		

7	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>排泄、排便状況、睡眠時間を保護者メールで毎日伝えている。こども同士の玩具の取り合いや、噛みつき行動がみられる時期だが、職員間で連携して防ぐようにしている。噛みつきがあった場合は、担任から保護者に、状況に応じて園長が説明や対応をしている。</p>		
8	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>コーナー遊びを設置し、落ち着いて遊べる環境作りをしている。玩具も見やすいようにファイリングや写真で示して、かごで分別している。ロッカーや手洗い場といった生活場で、こどもが生活しやすい動線を常に考えている。</p>		
9	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>個別記録は丁寧に記載している。医療機関との連携は、保護者を通して行っている。療育担当者が生活の様子を確認しに来ることもある。支援の必要なクラスには、保育士をプラスで配置している。こどもの状態や発達に合わせて、備品の配置を変え、使いやすい環境作りに取り組んでいる。</p>		
10	A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>当番体制で安全保育を心掛けている。延長保育までの時間は、こどもを3クラスに分け、少人数になってから合同保育、延長保育へと繋げている。こどもの状態に合わせて、玩具を選別し、落ち着いて遊べる環境作りを行っている。また、延長保育の子どもには軽食を提供している。</p>		
11	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>クラスだよりで就学へ向けた活動の紹介や個人懇談を行い、安心して就学できるようにサポートしている。2年前から「架け橋プログラム」で小学校と情報交換や継続的計画を年2～3回行っている。操山中学校区や地域の集まりに意欲的に参加し、情報交換をしている。保育においては、個々に合った絵本を利用して文字を読んだり、絵日記を書いたり、それぞれが無理なく楽しみながら活動をしている。</p>		

A-1-(3) 健康管理		第三者評価結果
12	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>一人ひとりのこどもの健康状態に関する情報を共有している。保健年間計画を策定し、こどもの健康管理に努めている。午睡時の突然死症候群対応として、ルクミー体温計(保育ICTサービス)で確認しながら、呼吸確認票も10分ごとにも確認・記録している。リーダーが時間ごとに検印を行い、確認漏れが無いようにしている。突然死症候群の研修も行っている。</p>		
13	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>年1回、歯科検診を実施し、クラスでも歯の大切さや虫歯にならないように話をし、保育に反映させている。年2回、園医による健康診断も実施している。どちらも当日、保護者には掲示や個別で伝えている。検診を通して、こどもが元気に成長していることの確認を行っている。</p>		
14	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>アレルギーの対応も徹底しており、毎日食材チェックをしてから給食を作っている。アレルギーがあるこどもには、アレルギー検査を義務づけ、診断書を提出して頂いている。担当医の連絡先を控え、緊急時には、すぐ対応できるようにしている。アレルギーのある場合には、お盆を変えてわかりやすいように工夫している。</p>		
A-1-(4) 食事		第三者評価結果
15	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>給食室はホールからガラス張りなので、様子が見える。こどもと給食室職員とのコミュニケーションも図れている。給食室では、園児全員の成長曲線を記録し、肥満、栄養状態を管理している。給食にも工夫を凝らし、リクエスト給食の提供もしている。4歳児で「味噌作り体験」、5歳児になった時に自分たちの作った味噌を給食で提供している。</p>		
16	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	(a)・b・c
<p><コメント></p> <p>旬の食材を利用し、安心・安全な給食作りを心がけている。月2回ある同じメニューに対して、1回目の反省を踏まえて2回目を提供している。残食が多い場合には、何が必要かを考え、切り方や盛り方、味付けの仕方を変えている。園長はこどもが食べる前に検食を行っている。岡山市のメニューを参考にしているので、調整がしやすい。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
17	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>入園説明会、入園式、発表会の場を利用して、保護者に園の様子を伝える場を設けており、家庭へ情報発信をしている。日々の保育では、ホワイトボード(掲示板)を利用して、こどもの様子を知らせたり、写真を撮って視覚的に伝えたりしている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
18	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>些細なことでも、連絡ノートに記載し、保護者対応に努めている。園長・副園長をはじめ、担任もできるだけ保護者に言葉掛けをするようにしている。日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築けるように取り組んでいる。教室まで保護者が行けるようになり、話す機会が増えた。</p>		
19	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>気になるこどもがいれば、地域相談センターへ相談するとともに、園長が保護者に確認するように努めている。また、園で力になれることがあれば、関係機関との協力する体制作りもできている。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
20	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	○a・b・c
<p><コメント></p> <p>日々保育実践を振り返り、書類の記載がされている。担任同士で昼の時間を利用して、こどもの様子を伝え合う場を作っている。継続して取り組んでいる研修内容を実際の保育に取り入れながら、保育実践をしている。自己分析シートや園長独自の情報シートを活用して、見直しを図っている。</p>		